

メダルと私

もう10年くらい前になる。ブース教授は私にメダルをつくらないかと言った。

メダル？ オリンピックで勝者がもらえるあのメダル？

学生メダルプロジェクトのタントウシャがイギリスからくるのですけどハナシをきいてもらえますか？

マーシーは優しそうな旦那さんと一緒にやって来た。

彼らが見せてくれたイギリスのメダルの画像は私の興味をそそった。

コンテンポラリーアートメダルと彼らはそれらと呼んでいた。

私は蟻のメダルを造った。（「They repeat one's act forever」）

私のメダルは英国メダル協会のエディションメダルとして販売され大英博物館のコレクションとなった。

2009年4月、私はイギリスのフェルマスにいた。

フェルマスは海辺の小さな町でそこでは英国美術メダル協会の kongress が開催されていた。そこで私はメダルの人々と出会うことになる。

FIDEM（国際美術メダル連盟）と JAMA（日本芸術メダル協会）の存在を知ったのはここである。

2012年9月、私はグラスゴーで開催された FIDEM kongress 展覧会のグランプリを受賞した。

メダルは手のひらに収まる小さな造形です、小さいがそこには無限に広がる宇宙があります。

ここには書ききれない多くの人々との出会いがあり出来事がありました。

それらのひとつひとつは渾然一体となって私のメダルとなっています。

瀬田 哲司